

がんの予防

日時

平成27年6月21日(日) 13:30~16:00

場所

倉吉交流プラザ 2階視聴覚ホール

13:30 開 会

あいさつ 鳥取県立厚生病院 院長 井藤久雄

13:35 講 演

1 胃がん・大腸がんの予防

演者:林 暁洋(厚生病院 消化器内科副医長)

2 子宮がんの予防

演者:下雅意るり(厚生病院 産婦人科医師)

(休 憩)

14:45 3 乳がんの予防

演者:田中裕子(厚生病院 外科副医長)

4 肺がんの予防

演者:吹野俊介(厚生病院 中央手術センター長)

意見交換

16:00 閉 会

主催

鳥取県立厚生病院

共催

倉吉市教育委員会

後援

鳥取県健康対策協議会 (公社)鳥取県医師会 (公社)鳥取県中部医師会

(一社)鳥取県診療放射線技師会 (一社)鳥取県臨床検査技師会

鳥取県細胞検査士会 (一社)鳥取県薬剤師会 (公社)鳥取県看護協会

倉吉市 三朝町 湯梨浜町 琴浦町 北栄町 (公財)鳥取県保健事業団
(株)新日本海新聞社



1 胃がん・大腸がんの予防

林 暁洋 （鳥取県立厚生病院 消化器内科副医長）

【略 歴】

2005年 川崎医科大学医学部卒業、鳥取大学初期研修医

2007年 鳥取大学第二内科入局

2013年 鳥取県立厚生病院 現職

【専門分野等】

日本内科学会、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化管学会

【講演概要】

がんは日本人の死因第1位であり、毎年30万人以上が亡くなっています。臓器別では、胃がんは第2位、大腸がんは第3位と多い疾患です。

胃がんの原因として最もいわれているものは、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染です。2013年にヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が除菌療法の保険適応となり、多くの人に除菌療法がなされるようになっていきます。今後、除菌療法により胃癌による死亡数も減っていくと思われれます。内視鏡検査を行い、ピロリ菌感染の有無を検査し、感染していれば除菌を行いましょう。

一方、大腸がんは肥満や食生活、飲酒などが危険因子とされており、食の欧米化で罹患数が増加しており、今後も増加すると思われれます。便潜血検査を行い、陽性なら内視鏡検査を受けるようにしましょう。

2 子宮がんの予防

下 雅意 り （鳥取県立厚生病院 産婦人科医師）

【略 歴】

2001年 鳥取大学医学部卒業、鳥取大学女性診療科入局

2015年 鳥取県立厚生病院産婦人科 現職

【専門分野等】

日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会、日本緩和医療学会

【講演概要】

近年、子宮頸がんは20～30代の若い女性に急増しています。

子宮頸がんは、進行すれば命の危険があるのはもちろんのこと、比較的早期でも、手術によって子宮や卵巣を失うため、結婚や出産を控えた女性にとっては、さらに深刻な問題となります。

けれど、子宮頸がんは他のがんと違い、唯一、確実に防げるがんです。なぜならば、原因が特定されており、予防方法も確立されているからです。

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染であるということが分かっています。そのため、ワクチンや細胞診（がん検診）で、がんになるのを防ぐことができます。

本日の講演では、がん検診やワクチンについて、わかりやすくお話いたします。今まで不安に感じていたこと、わかりにくかったことなどがあれば、どうぞお気軽にご質問ください！

3 乳がんの予防

田中裕子（鳥取県立厚生病院 外科副医長）

【略歴】

2006年 鳥取大学医学部卒業、鳥取県立中央病院研修医

2008年 鳥取県立厚生病院勤務

2014年 鳥取大学乳腺内分泌外科研修

2015年 鳥取県立厚生病院 現職

【専門分野等】

日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医

【講演概要】

今回の公開講座のテーマはがんの予防です。残念ながら、乳がんを100%予防する方法はありません。それでもどんなことに気をつけて日常生活をおくれば、乳がんの発症を減らすことができるのか、いっしょに考えながら聞いてください。

できてしまった乳がんは、乳がんで命を落とさないために診断・治療を行うことが大切です。乳がん検診・乳がん治療の話をしていきます。乳がんを知って、もしもの時もあせらず対処できるようになりましょう！

4 肺がんの予防

吹野俊介（鳥取県立厚生病院 中央手術センター長）

【略歴】

1979年 鳥取大学医学部卒業、鳥取大学第二外科入局

2003年 鳥取県立厚生病院外科部長

2010年 現職（中央手術センター長兼外科部長）

【専門分野等】

日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、各指導医・専門医

【講演概要】

日本人のがんの死亡原因の第一位である肺がんの成り立ちと、予防についてお話しします。

1. 1次予防

なんと言っても禁煙です。また受動喫煙といって、他人が吸ったたばこの煙を吸い込んだり、たばこを吸った人の吐く息を吸い込むことも、たばこを吸うことと同じくらいに肺がんになる危険性が高いですので、受動喫煙対策も重要です。

抗酸化作用のある、果物、野菜、魚などもがん予防に有効でしょう。

2. 2次予防

がんは誰でもなると考えて、早期の肺がんを発見して治しましょう。それには毎年欠かさず検診を受けることが必要です。またもっとも有効な検査法は胸部CTを撮ることです。

2cm以下の肺がんは、手術すれば90%以上の確率で治ります。

きれいな空気を未来に残しましょう。